

## 体育系大学生における「悩み」の主観的頻度について

### —— 悩みの実態調査をもとにして ——

仁科 博之, 荒井 龍弥

**Degree on feelings of worries with students in college of sports science**

—— A report of personal inventory ——

**Hiroyuki Nishina and Tatsuya Arai**

What kinds of distresses are felt by students in a college of sport science? A questionnaire regarding feeling of worries was administered to 164 students (120 males and 44 females; mostly 2nd year students). The questions of the survey was revised previous questionnaire administered by Nishina (1990). The number of items in the questionnaire was 200, and they were divided into 10 categories. Students were asked to rate on 4-point scales about frequency and seriousness of each item. The results showed as follows:

- 1) High correlation exists between frequency and seriousness in many items. That means a tendency that as oftenness of a feeling of distress increases, they considered it as serious problem for them.
- 2) Categories of financial problems and campus-life related problems scored higher than other areas.
- 3) Students who answered high-frequency (3 or more in 4-point scale) on the items "I have thought about suicide" and "I have thought about quitting" were few, but they answered much higher on other items.

**Key words:** feeling of distress, college of sports science, frequency and seriousness

#### 問 題

大学生は、「自我意識の高まりや心理的離乳への欲求が社会や自己に対して表面化し、しばしば深刻な悩みや不安を生みだすことがある(遠藤, 1981)」時期であるという。経験的にも、種々の深い悩みを抱えた大学生が見られ、彼らへの援助・処遇の方法が大学における問題ともなっている。彼らの持つ悩みの内容や強さは一様ではなく、そのことが援助を困難にしていると言えよう。しかし、全体傾向として、学生がどんな悩みを感じながら学生生活を過ごしているの

かを知ることは、本学学生の指導・援助の第一歩として必須のことであると考えられる。本学においても、大学生活が一応の適応水準に達すると考えられる6~7月を迎えた1年次生を対象として、学生生活における悩みや不安の調査を行っている(本学学生相談室, 1995)。この結果、悩みの内容として、サークル活動や学業に対する不適応感が強く見られた。しかし、これらの不適応感は学年が進むにつれ、どう変容していくのかは明らかではない。また、他の強い悩みが生起する可能性も考えられる。

本研究では、本学の2年次生以降を対象とし、

さらに詳細に悩みの内容を調査することによって、本学学生の学生生活での諸問題に接近するための基礎データを得ることを目的とする。

## 方 法

### 調査項目

従来、悩みをスクリーニングするための様々な調査が作成・実施されている。しかし、本学の場合、体育系大学ならではの特殊性があることが十分に予想できる。そこで、本研究においては、この点に配慮しつつ、宮城県高等学校長協会（1956）や仁科（1990）が行った「悩みの調査」をベースとし、日方式生徒の意見・態度・悩み調査（高等学校用・PST-AD）の調査項目の一部を付加した学生生活全般にわたる合計200項目を抽出した。

さらに項目ごとに筆者ら2名が討議を行い、それぞれ20項目からなる10分野（健康・性格・経済・親および家庭・生活一般・異性・人生・進路・大学生活・学習）に分けた。ただし、経済分野については、調査用紙作成上のミスにより重複した質問項目が1問あり、後出のものを分析から外した結果、この分野のみが19問から構成された。

分類基準は必ずしも明確ではないので、分類の妥当性は必ずしも保証されていないが、この分類に基づいた検討を行うことによって、学生の悩みの傾向を知ることは十分に可能であると判断した。

一方、悩みを抱えていたとしても、その頻度・深度により、深刻さは異なることが考えられる。このため、「日頃どの程度悩んでいるか（以下、「頻度」と呼ぶ）」および「その悩みは一般にどの程度深刻だと思うか（以下、「深刻度」と呼ぶ）」を分けて評定させた。「深刻度」については、「頻度」との違いを明確化するために、「一般に」とのワーディングを付加した。

### 手続き

1996年4月23日、本学教職関連科目「道德教育の研究」（2年次生以上）受講者182名を対象とした。上記200項目を分野ごとに循環的に配列して作成した冊子（B4版4枚）を配布し、質問項目ごとに「頻度」および「深刻度」を4件法で判定させた。回答は各自のペースで行い、平均所要時間は約60分であった。「頻度」は、1.「全くない」2.「たまに」3.「しばしば」4.「いつも」の4段階であり、「深刻度」は、1.「全くない」2.「やや」3.「かなり」4.「非常に」の4段階である。

回答者を特定することによる反応バイアスを排除するため、無記名としたが、回答内容について、筆者らに対する自発的な来談を可能とするため「ペンネーム」の記入を求めた。

また、本調査は「悩みの調査」であり事実を問うものではないこと、すなわち、項目に対応する事実があったとしても、それが悩みに感じられなければ悩みでないことをフェイスシートに明記し、併せて口頭でも説明した。

## 結 果

調査対象者182名のうち、調査用紙の落丁によるものや無回答項目のきわめて多いもの（四分の一以上）を除いた有効回答者数は164名であった。有効回答者の内訳をTable 1に示す。全体の項目内容および反応数については、巻末資料を参照されたい。

結果の分析に当たり、大きく2つのアプローチを採用することとした。質問項目の中には、学生の多くが共通して悩んでいる事柄と、学生の殆どが問題を感じていないにも拘わらず特定の学生には悩みと感じられる事柄とがあることが考えられる。これらは異質である。悩みへの援助の方法も、前者は大学全体としての対応を検討することが求められ、後者はその悩みの他にどんな悩みが感じられているかの傾向をふまえて個別的に対処する必要がある、という違いが

Table 1 回答者の学科・性別・学年

学科	体 育 学 科				健 康 福 祉 学 科			不 明	計
	2	3	4	不 明	2	3	4	2	
男 性	102	4	1		13				120
女 性	30	1		1	11			1	44
計	132	5	1	1	24	0	0	1	164

あると考えられた。

したがって、本研究では、第一に学生全体が感じる悩みの程度の指標として、評定平均を用いて検討し、第二に一定の基準を超えた反応の数をもとに、回答者の反応特徴について検討することとした。

評定平均～項目ごとの評定平均値および設問間の相関

項目ごとの頻度の評定平均値 (1 (全くない)～4 (いつも))は 1.03～2.61 であった。また、深刻度の評定平均値(1 (全くない)～4 (非常に))は 1.06～2.40 であった。それぞれの評定平均の

Table 2 頻度平均の上位 10 項目

分 類	No.	質 問 項 目	評定平均	SD
進路	98	卒業後、希望するところへ就職できるか不安だ	2.61	1.06
学習	10	勉強に十分な時間を使っていない	2.59	1.10
経済	63	自由にできるお金がほしい	2.55	1.24
大学生活	49	大学のいろいろな施設設備が足りない	2.39	1.18
健康	81	疲れやすい	2.35	1.13
学習	80	講義が退屈だ	2.31	0.94
経済	23	無駄遣いが多い	2.27	0.94
親・家庭	64	親が自分のために犠牲を払っている	2.26	1.08
大学生活	149	部活動やサークルに不満がある	2.26	1.20
進路	28	自分は将来どんな人生を歩くのかと思う	2.24	0.98

Table 3 頻度平均の下位 10 項目

分 類	No.	質 問 項 目	評定平均	SD
大学生活	19	男女共学がいやだ	1.03	0.25
人生	87	宗教的信仰心が強すぎる	1.04	0.23
親・家庭	154	親の愛情が足りない	1.05	0.23
親・家庭	114	親が兄弟(姉妹)を差別する	1.13	0.51
経済	73	父あるいは母がいない	1.15	0.64
大学生活	179	先生に疎外されている	1.16	0.48
人生	147	酒がやめられない	1.17	0.52
親・家庭	124	両親が不和である	1.17	0.53
生活一般	115	得意な運動や趣味を持っていない	1.18	0.49
親・家庭	174	家に帰るのでゆううつだ	1.19	0.56

Table 4 深刻度平均の上位 10 項目

分類	No.	質問項目	評定平均	SD
進路	98	卒業後、希望するところへ就職できるか不安だ	2.40	1.15
経済	63	自由にできるお金がほしい	2.17	1.21
親・家庭	64	親が自分のために犠牲を払っている	2.15	1.10
大学生活	49	大学のいろいろな施設設備が足りない	2.14	1.19
進路	178	教員採用試験に合格できるか不安だ	2.09	1.18
学習	10	勉強に十分な時間を使っていない	2.08	1.02
大学生活	149	部活動やサークルに不満がある	2.05	1.17
健康	101	目が悪い	2.01	1.19
健康	81	疲れやすい	2.00	1.05
大学生活	79	大学が学生の要求に無関心だ	1.98	1.12

Table 5 深刻度平均の下位 10 項目

分類	No.	質問項目	評定平均	SD
大学生活	19	男女共学がいやだ	1.06	0.36
親・家庭	154	親の愛情が足りない	1.07	0.29
人生	87	宗教的信仰心が強すぎる	1.11	0.50
生活一般	115	得意な運動や趣味を持っていない	1.13	0.39
人生	77	宗教的信仰心がない	1.14	0.57
親・家庭	94	兄弟（姉妹）が多い	1.14	0.41
異性	46	異性との交際に親が厳しい	1.15	0.49
健康	31	身長が高い	1.15	0.56
大学生活	179	先生に疎外されている	1.16	0.49
健康	51	顔色が悪い	1.17	0.49

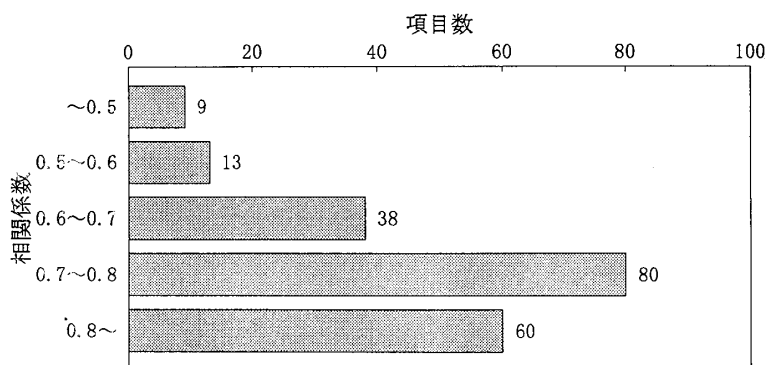


Fig. 1 頻度と深刻度の相関分布

高い10項目および低い10項目について Table 2~5 に示す。頻度と深刻度の間で重複している項目が上位で7項目, 下位で5項目見られた。各項目の頻度と深刻度の間の相関を見ると, どの項目もかなり高い値を示した (Fig. 1)。一般に自分がしばしば悩むことがらは, 深刻度が高いと評定する傾向があることがわかる。

この結果を受け, 重複を避けるため, 以降の分析では, 主として頻度に対する反応に着目することとした。

### 悩んでいる項目~比較的頻繁に感じる悩みについて

悩みの頻度について, 評定平均のみを代表値とした場合, 悩みの質・強さが反映されにくい。すなわち, 極端に言えば全員が頻度で2(たまに)と評定した場合と, 半数が1(全くない), 残りの半数が3(しばしば)と評定した場合のいずれも平均は2となるが, 当然ながらこれらの反応は異質であると考えらるべきであろう。したがって, 項目の詳細な検討に際して, 頻度について高い評定をした人数が多い項目, および個人に着目することとした。

#### 1. 分野別の頻度評定について

頻度について, 分野別に2(たまに)・3(しばしば)・4(いつも)をそれぞれ基準とした学

生1人当たりの平均項目数を Fig. 2 に示す。2(たまに)以上についてみると, 学習や進路・生活一般・性格などについての悩みが多いが, 4(いつも)では, 大学生活や経済について頻度が高い項目があることがわかる。平均を代表値とした場合には見逃す可能性がある知見だと言える。

#### 2. 分野ごとに見た悩みの内容について

仁科(1990)による宮城県総合衛生学院を対象とした調査(本研究と同じく, 200項目であり, かつ項目の約8割が同じであった)では, 単に「悩みがあるかないか」について, 項目ごとに○をつける方式を採用した。この結果悩みがあると報告された平均項目数は学生1人あたり20.7であった。

本研究の場合, 4段階評定を採用したことから, かなり悩みがあると考えられる基準をどこに引くかが問題となる。3(しばしば)を基準にしたとすると, 悩みの頻度について, 基準を上回る項目数は, 学生1人あたり平均33.8項目(最大123 最小0)であった(男 平均33.2 最大123 最小0; 女 平均35.5 最大116 最小7  $t=0.54$  n.s.)。同様に, 4(いつも悩んでいる)と答えた平均項目数は14.0(最大82 最小0)であった。仁科の調査での被験者と等質性が保証されていないが, この結果から, 基準

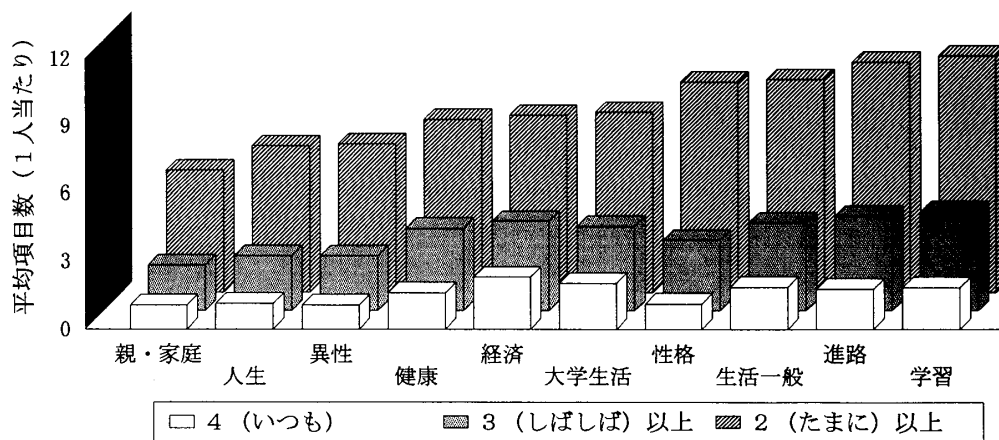


Fig. 2 分野ごとの平均項目数

※各分野20項目中・ただし経済のみ19項目中

体育系大学生における「悩み」の主観的頻度について

Table 6 評定値3以上の人数が41名以上の項目

分野	No.	項目	評定 (全くない～いつも)				
			1	2	3	4	3～
健康	81	疲れやすい	44	57	25	38	63
健康	101	目が悪い	72	29	19	44	63
健康	11	体重が重い	68	37	25	34	59
健康	161	睡眠不足である	65	45	30	24	54
健康	131	スタミナがない	76	43	32	13	45
性格	192	人に好かれたい	74	41	19	30	49
経済	63	自由にできるお金がほしい	44	43	19	58	77
経済	23	無駄遣いが多い	32	76	35	21	56
経済	153	もっといい車やオートバイがほしい	80	31	20	33	53
経済	3	親からの仕送りを受けるのが心苦しい	45	70	33	14	47
経済	123	経済的に自立していない	78	41	15	30	45
経済	143	アルバイトをしたいが時間がない	100	22	22	20	42
親・家庭	64	親が自分のために犠牲を払っている	45	62	25	31	56
生活一般	85	朝起きが苦手だ	64	44	20	36	56
生活一般	135	英会話ができない	56	54	17	37	54
生活一般	105	自動車運転免許がほしい	105	10	11	38	49
生活一般	25	初めて会った人となかなか話ができない	58	65	26	15	41
生活一般	162	趣味や遊びの時間がとれない	88	35	20	21	41
異性		(該当項目なし)					
人生	7	自分の理想とちがう生き方をしている	51	65	32	15	47
進路	98	卒業後、希望するところへ就職できるか不安だ	29	46	48	40	88
進路	178	教員採用試験に合格できるか不安だ	61	41	28	34	62
進路	78	職業についての情報がほしい	49	64	33	18	51
進路	28	自分は将来どんな人生を歩くのかと思う	35	79	25	25	50
進路	168	いろいろな資格をとりたいが、とれるか不安だ	62	57	31	14	45
大学生活	49	大学のいろいろな施設設備が足りない	49	44	28	42	70
大学生活	149	部活動やサークル活動に不満がある	61	39	25	39	64
大学生活	129	現在の大学は第一志望ではなかった	79	32	13	40	53
大学生活	79	大学が学生の要求に無関心だ	63	49	24	28	52
大学生活	59	大学での自由が少ない	81	33	22	28	50
大学生活	69	大学生活が忙しすぎる	77	41	21	25	46
学習	10	勉強に十分な時間を使っていない	34	41	48	41	89
学習	80	講義が退屈だ	29	77	35	22	57
学習	170	競技力がなかなか向上しない	76	37	29	21	50
学習	110	字が下手だ	76	40	21	27	48
学習	40	嫌な教科でも受講しなければならない	53	67	23	21	44

を3(しばしば)にすることが妥当であると考えられた。

また、頻度に対する評定平均を考えても、どの項目についても3を超えないということから、3(しばしば)以上の評定があった場合、この反応は他の学生に比し、悩みの存在を表明したものであると考えることができよう。

そこで、以下では3(しばしば)を基準として、それ以上の評定が行われた場合には悩みが表出されたとし、その悩みの内容を分野ごとに検討していくこととする。なお、回答者全体の四分の一以上が基準に該当した項目(悩みが表出されたと判断しうる)をTable 6に示した。

## 考 察

### 評定平均による検討

評定平均が上位となった項目は6~7分野と全体の半数以上にまたがっており、問題で述べた通り、現在の本学学生の悩みが多岐にわたることが示されている。特に、頻度において評定の中間点(2.5)を超えた3項目(進路への不安・勉学の時間不足・経済的不足)は、本学独自のものであるとは言えないが、対応が求められることであろう。また、下位の項目にはともすると重大な影響を引き起こすようなことがらが含まれており、この意味では本学学生の健全さが

示されていると言える。

また、頻度と深刻度には、かなり高い相関が見られた。この理由として、設問の意図が必ずしも十分に伝わらなかったという可能性もあるが、Table 7に示すごとく、相対的に相関の低い項目も存在しているので、設問の理解不足によってのみ説明するのは必ずしも充分ではない。とはいえ、無相関検定の結果、全項目に相関があるという今回の傾向は社会心理学における総意誤認効果(個人の態度(主観的頻度)が全体の態度(深刻度)であると誤認しやすい)によって説明しうるものと考えられる。

### 頻度による検討

以降は頻度を用いて、分野ごとに項目を詳細に検討し、次にとくに重視したい質問項目について述べてい。

#### 1. 分野ごとの悩みの内容について

##### ・健康分野

睡眠不足など、現代日本社会において多く訴えられる症状と関連が深い項目が本調査においても見られたと言える。しかし、本学のみでの現象ではないからといって、軽視することは賢明ではないだろう。これらの悩みの背後には不規則な生活やストレスがあることが想像される。重大な事態を招く可能性もあることから、看過してはならないと思われる。

Table 7 頻度と深刻度の相関が低い質問項目

分類		質 問 項 目	頻度平均	深刻度平均	r
人生	87	宗教的信仰心が強すぎる	1.04	1.11	0.189
親・家庭	154	親の愛情が足りない	1.05	1.07	0.255
異性	36	異性との交際が多い	1.52	1.42	0.309
健康	1	体重が軽い	1.34	1.34	0.313
健康	31	身長が高い	1.27	1.15	0.357
人生	77	宗教的信仰心がない	1.37	1.14	0.404
人生	127	自殺したいと思うことがある	1.25	1.26	0.441
健康	51	顔色が悪い	1.20	1.17	0.496
親・家庭	94	兄弟(姉妹)が多い	1.29	1.14	0.499

※  $r < 0.5$  の項目を抽出した。

また、[1. 体重が軽い]は、県総合衛生学院の調査では皆無であったが、今回は13名(8%)が3以上に評定した。現今の社会を包むダイエット全盛の雰囲気からしても、この悩みは本学のような体育系大学の特徴であると思われる。

#### ・性格分野

評定平均値は高かったものの、頻度が高いものは多くない。唯一[192. 人に好かれたい]は、頻度では多いが、深刻度を同様の基準で見ると26名(16.4%)とそれほど多くない。少なくとも現状においては、本学の学生の場合、自省的な傾向がなく、否定的な自己認識をあまり持っていないと判断してよいのではないだろうか。

#### ・経済分野

[63. 自由にできるお金がほしい][23. 無駄遣いが多い]に高い数値を示しながら、[3. 親から仕送りを受けるのが心苦しい][123. 経済的に自立していない]にも高い数値を示しており、この側面での自立欲求があるにも拘わらず解決行動には至らない状態が見られる。

#### ・親・家庭分野

[64. 親が自分のために犠牲を払っている]がこの分野では飛び抜けて多かった。反面[154. 親の愛情が足りない]がこの基準では0名であったことと考えあわせると、本学学生の家庭環境ならびに家族や家庭への配慮は基本的に健全なものと考えることができそうである。

#### ・生活一般分野

[25. 初めて会った人となかなか話ができない]は、対人関係について問題を窺わせるが、深刻度で見ると25名(15.2%)とそれほど深刻な問題とは感じていないことを示していよう。また、[135. 英会話ができない]について、多くの学生が悩みを感じていたことは予想できなかったことである。

#### ・異性分野

異性の分野では、25%以上の者が悩みを訴える項目は見られなかった。回答時の文脈も考慮するべきであろうが、しばしば典型的な悩みとなるこの分野で頻度が多くないことは、総じて

歓迎すべき結果と言えよう。

#### ・人生分野

[7. 自分の理想とちがう生き方をしている]のみが多かった。しかし、これも深刻度では23名(14.0%)と多くはない。ただし、[127. 自殺したいと思うことがある]については、項目内容の重大性のため、別に扱うこととしたい。これについては後述する。

#### ・進路分野

就職・資格・適性などの項目について、学生の多くが不安を抱えていることが示されたと言える。今回の調査の殆どをしめる2年次生についても、もはや進路の悩みが表出されることは注目すべきことであろう。具体的な不安除去のために筆者らを含め、各方面からのサポートの充実がさらに待たれると考える。

#### ・大学生活分野

時間的側面・設備面など、学生のニーズへの対応を求める項目に悩みが高かったと言える。また、[189. 大学をやめようと思うことがある]に対する反応についても、高評定者は少なかったとはいえ、以下でさらに検討をしたい。

#### ・学習分野

ここであがってきた質問項目を見ると学生自身の目的意識の明確化・深化が必ずしも十分でない状況であると思われる。[170. 競技力がなかなか向上しない]について、同様の基準で深刻度を見ると、46名(28%)とかなり多いことが注目される。

### 2. 重視したい質問項目について

本研究で用いた質問項目は、それぞれ重大な内容が含まれている。中でも特に[127. 自殺したいと思うことがある]および[189. 大学をやめようと思うことがある]に注目することは、項目内容の性質上、必須のことであると判断した。それゆえ、これらの項目に対する評定頻度が高い学生をとりあげ、他の項目への回答傾向を検討することによって、彼らの陥っている問題の所在を明らかにする一助としたい。



1. [127. 自殺したいと思うことがある]について  
この項目に頻度3以上の評定を行ったものは6名(3に2名・4に4名)であった。彼らの反

応特徴を探索的に明らかにするため、分野ごとの該当項目数の1人あたり平均を算出したところ、どの分野においても悩みが多かった (Fig. 3)。全体として悲観的ないし事大主義的に反応

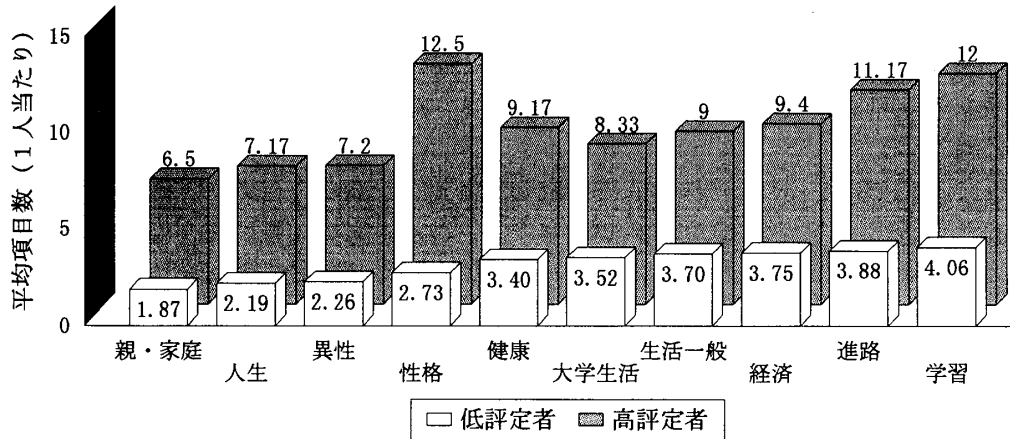


Fig. 3 問 127 への評定別 高評定項目数 (分野別)  
※各分野 20 項目中・ただし、人生、経済のみ 19 項目中

Table 8 性格分野に対する問 127 高評定者と低評定者の評定

No.	項目	高評定者 (%)	低評定者 (%)	$\chi^2$
2	神経質である	4 (67)	33 (21)	**
12	注意深くない	3 (50)	23 (15)	*
22	興奮しやすい	3 (50)	20 (13)	*
32	怠惰である	3 (50)	18 (12)	**
42	強情である	3 (50)	30 (20)	+
52	ふさぎこみやすい	3 (50)	12 (8)	***
62	積極的な言動がとれない	5 (83)	17 (11)	***
72	決断力がない	3 (50)	27 (17)	*
82	あきやすく長続きしない	5 (83)	35 (23)	***
92	誘惑にまけやすい	4 (67)	22 (14)	***
102	自己中心的である	5 (83)	25 (16)	***
112	孤独がこわい	3 (50)	17 (11)	**
122	空想にふけることが多い	5 (83)	21 (14)	***
132	他人の感情を傷つける言動がある	4 (67)	27 (17)	**
142	他人の言葉が気になる	5 (83)	32 (21)	***
152	他人に対してひげめ・ひがみを感じるが多い	5 (83)	17 (11)	***
162	親友がいない	3 (50)	5 (3)	***
172	悪い友達がいる	1 (17)	11 (7)	n.s.
182	過去の失敗にとらわれやすい	4 (67)	23 (15)	***
192	人に好かれない	4 (67)	45 (29)	*

※ \*\*\* p<.001 \*\* p<.01 \* p<.05 +p<.10

していることが窺える。特に、性格分野は高評定の項目数が多いことが目立つ。そこで、性格分野について、3以上の評定を行った者の数をTable 8に示した。[42. 強情である]・[172. 悪い友達がいる]の他は、いずれの項目も該当者の中では半数以上が高い評定をしていることがわかる。このことは、直接には自殺したいと思う頻度が高い者ほど、自己の性格を直視している傾向を示していると考えられる。しかしこのことは当然ながら彼らの性格に問題があることを意味しないことを特に付言しておく。

2. [189. 大学をやめようかと思うことがある]について

先と同様の検討を行う。頻度3以上の評定者は27名(3に14名・4に13名)であった。彼

らのうち、22名が深刻度も3以上と評定しており、それほど安易に答えているわけではないことが示唆される。この者たちを対象にした分野ごとの1人あたり悩み平均数をFig. 4に示す。対象者は前述の[127]ほどではないが、全体としていずれの分野に対しても高い傾向を示した。しかし、分野ごとに見た場合、特徴的な違いは明らかではない。そこで、対象者とそれ以外の者につき、項目ごとに $\chi^2$ 検定を行い、探索的に連関を見ることとした。危険率1%で有意な連関が見られたのは56項目で、各分野にわたっていた(Fig. 5)が、進路および学習分野をあわせて21項目と3分の1以上を占めている。そこで、この21項目をTable 9に示す。就職への不安がかなり高いこと、自分なりの問題を解

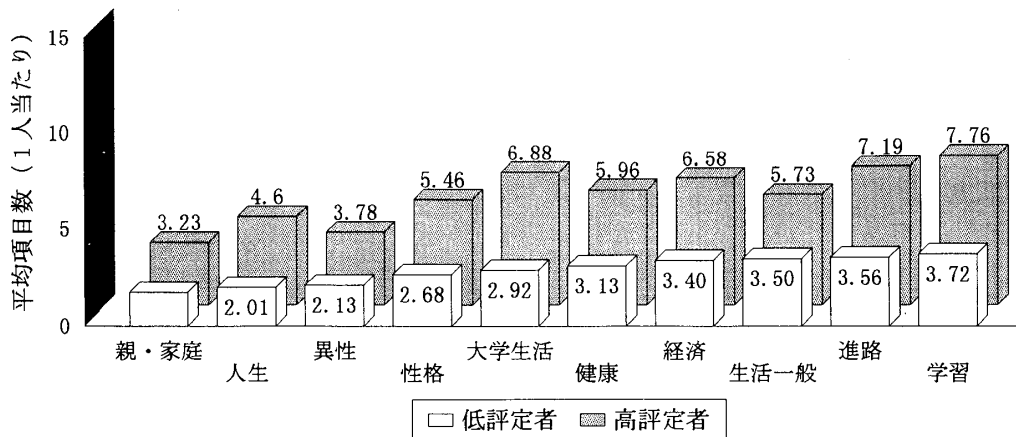


Fig. 4 問189への評定別 高評定項目数(分野別)  
※各分野20項目中・ただし、大学生生活、経済のみ19項目中

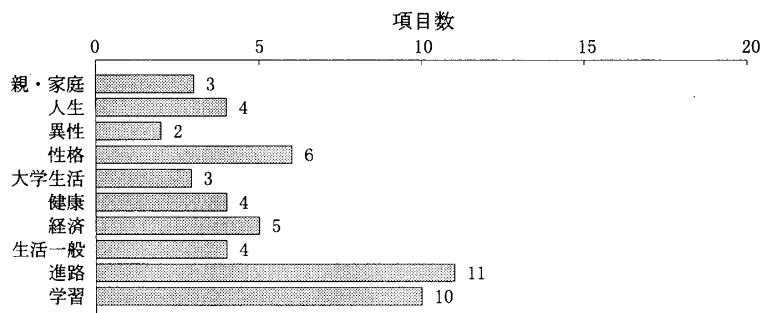


Fig. 5 問189への評定別 有関連項目数(分野別)  
※各分野20項目中・ただし、大学生生活、経済のみ19項目中

Table 9 進路・大学生生活分野に対する問 179 高評定者と低評定者の評定 (有連関項目)

分野	No.	項目	高評定者 (%)	低評定者 (%)
進路	18	選んだ進路が間違っているのではないかと思う	14 (52)	12 (9)
進路	28	自分は将来どんな人生を歩くのかと思う	14 (52)	36 (26)
進路	88	早く社会に出て自立したい	11 (41)	24 (18)
進路	98	卒業後, 希望するところへ就職できるか不安だ	22 (82)	66 (49)
進路	108	自分の能力にあった職業を選択できるかわからない	14 (52)	23 (17)
進路	118	卒業して就職することが不安だ	15 (56)	22 (16)
進路	138	早く結婚したい	11 (41)	25 (18)
進路	148	スポーツ種目の選択を誤ったのではないかと思う	5 (19)	5 (4)
進路	158	現在やっている競技を将来も続けられるか不安だ	9 (33)	6 (4)
進路	168	いろいろな資格をとりたいが, とれるか不安だ	14 (52)	31 (23)
進路	198	選んだ進路にむけて努力し続けられるか不安だ	12 (44)	19 (14)
大学生生活	9	大学の生活に適応できない	6 (22)	8 (6)
大学生生活	49	大学のいろいろな施設設備が足りない	19 (70)	51 (38)
大学生生活	69	大学生生活が忙しすぎる	17 (63)	29 (21)
大学生生活	79	大学が学生の要求に無関心だ	19 (70)	33 (24)
大学生生活	89	先生が学生に対して理解がない	15 (56)	17 (12)
大学生生活	129	現在の大学は第一志望ではなかった	17 (63)	36 (26)
大学生生活	149	部活動やサークル活動に不満がある	20 (74)	44 (32)
大学生生活	159	先生からの援助がほしい	4 (15)	4 (3)
大学生生活	179	先生に疎外されている	3 (11)	0 (0)
大学生生活	199	卒業できるか不安だ	10 (37)	15 (11)

決できていないことなどが窺える。また, 大学への過大な期待の存在も示唆されよう。

## まとめ

学生がもつ主観的な悩みは多様であることが示された。しかし, 本研究によって, その深度は必ずしも明らかにはならなかった。すなわち, 本研究のような調査方法を採用した場合, 逆に質問項目からその事柄をめぐる生活上の問題が想起される可能性があり, これらの悩みは日常から学生が抱えているという保証はない。本研究ではこの問題を「深刻度」という別の評定を求めることによって解消しようとしたのであったが, 頻度と深刻度の間に殆どの項目で相関が高かったことは, この方法では問題が解決されなかったことを示していよう。

さらに, 項目の分野への分類についても, 事後に改めて検討したところ, 必ずしも妥当ではない項目の存在が明らかになった。しかし, それも筆者らの主観の範囲を出ないものであるので, 今回は変更せず事前の分類によって結果の検討を行った。分類方法の検討を行う必要があると思われる。

これらの問題点をふまえた上で, 評定平均から結果の全体の傾向を改めて見直すと, 悩みの種類は多いものの, 学生の感じる悩みの頻度は事前の予想よりもかなり低いということができた。また, 分野ごとに頻度の高い項目についてまとめると, 以下のような平均的學生像が浮かび上がってくる。すなわち,

- 1) 睡眠不足や目の問題など, 健康面での問題を抱えている
- 2) 性格や人生について自省的ではなく, 自

らの性格や人生について深く悩むことはない

- 3) 経済的な自立欲求が高いが、それに応じた行動が伴っていない
- 4) 親や家庭面・生活面・異性関係では大きな問題はない
- 5) 就職や資格など、いわゆるキャリア発達に対し、先行きの不安を抱えている一方で、現在の大学生活に対しては時間的に多忙と感じ、もっとやりたいことや現状の学習に対する方向づけが少ない

むろん、これはあくまでも全体的な傾向から導出されることがらであって、個別の学生についてそれが当てはまるかどうかは別問題である。この中で、大学に対する要求や進路など自らの将来に対する不安などの悩みは少なくとも病的ではなく、前向きな問題解決を目指す姿のあらわれではなかろうか。この意味では、本研究で主として対象とした2年次生に至り、1年次で見られた大学生活への不適応感のみの状態からは一歩前進したと言えるかもしれない。大学側としても、学生の要求に十分に対応する体制をさらに充実することが期待される。

一方、「自殺したいと思うことがある」「大学をやめたいと思うことがある」など、重大だと思われる項目に高評価をした者は、全体的に他

の項目に対する評価値がきわめて高く、どこもかしこも悩みを感じるという悲観的な問題への見通しを持っていることが示唆されよう。特に、「自殺したいと思うことがある」に高評価の者は自己の性格を問題視しがちであるのに対し、「大学をやめたいと思うことがある」に高評価をしたものでは大学への要求や進路などの評価が高い傾向が見られるといった違いが見られた。本研究では彼らの反応が一様に高かったために、さらに詳細な問題の所在を特定することはできなかったが、これらの悩みを抱く学生に対しては、あたかも糸をほどくように一つ一つの問題の解決を援助するしか方法はないと思われる。

## 文 献

- 遠藤辰雄 1981 「青年期」  
藤永ら編『児童心理学入門』新曜社  
仙台大学学生相談室 1995 「大学生活についての調査 (1992・1993 年度分)」仙台大学紀要 第26集, 133-148  
宮城県高等学校長協会 1956 宮城県下高校生の問題調査の結果について  
仁科博之 1990 悩みの調査結果について 宮城県総合衛生学院 資料  
原野広太郎 1991 「PST-AD (日文化生徒の意見・態度・悩み調査) 解説書」日本文化科学社

(平成9年5月30日受付, 平成9年7月8日受理)

資料 「悩み」の調査課題と単純集計結果

種別	No.	質問項目	A (日ごろどの程度?)					B (深刻なものか?)				
			1	2	3	4	NR	1	2	3	4	NR
健康	1	体重が軽い	127	24	8	5		126	26	6	6	
健康	11	体重が重い	68	37	25	34		81	46	18	19	
健康	21	身長が低い	76	54	17	17		95	42	18	9	
健康	31	身長が高い	140	11	6	7		148	9	2	4	1
健康	41	姿勢が悪い	64	67	22	8	3	82	57	17	5	3
健康	51	顔色が悪い	139	19	5	1		142	17	4	1	
健康	61	食欲がない	134	26	2	2		133	22	5	4	
健康	71	食欲がありすぎる	100	32	15	17		111	27	6	19	1
健康	81	疲れやすい	44	57	25	38		66	54	22	22	
健康	91	食べ物に好き嫌が多い	115	35	9	5		124	25	9	5	1
健康	101	目が悪い	72	29	19	44		81	32	19	32	
健康	111	歯が弱い	114	31	12	6	1	109	39	10	5	1
健康	121	身体の故障が多い	103	47	8	6		111	34	10	9	
健康	131	スタミナがない	76	43	32	13		101	30	25	8	
健康	141	胃腸が弱い	110	30	17	7		115	28	14	6	1
健康	151	運動不足である	113	22	15	12	2	118	19	12	13	2
健康	161	睡眠不足である	65	45	30	24		87	39	23	15	
健康	171	夜眠れないことがよくある	108	39	11	5	1	118	31	11	3	1
健康	181	ニキビや吹き出物が出る	101	34	21	8		112	27	17	8	
健康	191	反射神経がにぶい	114	30	15	5		126	18	15	5	
性格	2	神経質である	45	82	31	6		87	58	13	6	
性格	12	注意深くない	64	72	17	10	1	88	62	8	4	2
性格	22	興奮しやすい	86	54	17	6	1	110	40	10	3	1
性格	32	怠惰である	80	63	12	9		90	57	10	7	
性格	42	強情である	74	55	22	11	2	93	49	15	4	3
性格	52	ふさぎこみやすい	110	39	13	2		114	34	14	2	
性格	62	積極的な言動がとれない	82	59	18	5		99	50	7	8	
性格	72	決断力がない	69	65	25	5		88	46	25	5	
性格	82	あきやすく長続きしない	69	54	27	13	1	90	42	21	9	2
性格	92	誘惑にまけやすい	74	64	17	9		98	43	15	8	
性格	102	自己中心的である	79	55	19	11		102	41	14	7	
性格	112	孤独がこわい	122	21	12	8	1	118	24	13	8	1
性格	122	空想にふけることが多い	90	47	17	10		118	25	13	7	1
性格	132	他人の感情を傷つける言動がある	72	61	22	9		90	40	24	10	
性格	142	他人の言葉が気になる	68	59	18	19		88	47	17	12	
性格	152	他人に対してひげめ・ひがみを感じるが多い	102	40	10	12		107	34	12	11	
性格	162	親友がいない	134	22	3	5		134	17	6	7	
性格	172	悪い友達がいる	130	20	7	5	2	136	14	9	3	2
性格	182	過去の失敗にとらわれやすい	84	53	18	9		100	40	17	7	
性格	192	人に好かれたい	74	41	19	30		99	39	12	14	
経済	3	親からの仕送りを受けるのが心苦しい	45	70	33	14	2	55	84	16	8	1
経済	13	テキストや参考書が充分に買えない	123	30	7	3	1	129	26	6	3	
経済	23	無駄遣いが多い	32	76	35	21		59	68	27	10	
経済	33	車やオートバイを持っていない	91	31	11	29	2	109	30	71	6	2
経済	43	親以外からの経済的援助を受けなければならない	129	17	9	8	1	132	20	8	4	
経済	53	ひとなみの服装がしたい	118	26	9	11		128	23	2	11	
経済	63	自由にできるお金がほしい	44	43	19	58		68	38	20	38	
経済	73	父あるいは母がいない	155	1	1	7		148	5	5	6	
経済	83	家庭内でトラブルがある	137	20	3	4		142	13	5	4	
経済	93	自分で働いてお金を得なければならない	82	44	15	23		92	41	15	16	
経済	103	いいアルバイト口がない	93	31	15	24	1	102	29	16	16	1
経済	113	家計が苦しい	93	42	12	17		94	37	16	17	
経済	123	経済的に自立していない	78	41	15	30		102	31	17	14	
経済	133	無駄づかいが多い	54	61	27	22		73	54	21	16	
経済	143	アルバイトをしたいが時間がない	100	22	22	20		105	27	17	15	
経済	153	もっといい車やオートバイがほしい	80	31	20	33		98	30	14	22	
経済	163	合宿・遠征費が足りない	112	28	7	17		117	18	14	15	
経済	173	スポーツ用具が買えない	128	24	8	4		132	24	7	1	
経済	183	少しのお金でも気をつけて使わなければならない	82	43	15	24		99	39	9	17	
経済	193	交際費が足りない	101	24	18	21		110	26	15	13	

体育系大学生における「悩み」の主観的頻度について

資料 「悩み」の調査課題と単純集計結果-1

種別	No.	質問項目	A (日ごろどの程度?)					B (深刻なものか?)				
			1	2	3	4	NR	1	2	3	4	NR
親・家庭	4	親が自分を理解しない	107	41	10	4	2	122	30	5	4	3
親・家庭	14	親が口やかましい	92	49	13	10		119	31	10	4	
親・家庭	24	実家で子供扱いされる	117	36	5	6		131	24	5	4	
親・家庭	34	親との間で意見の衝突がある	94	51	13	6		117	36	7	4	
親・家庭	44	将来親の面倒を見なければならない	86	46	14	17	1	114	33	9	7	1
親・家庭	54	親が自分を放任している	122	30	5	7		140	18	3	3	
親・家庭	64	親が自分のために犠牲を払っている	45	62	25	31	1	59	47	30	27	1
親・家庭	74	親が自分に期待しすぎる	112	40	6	6		119	35	4	6	
親・家庭	84	家族の中に病人や老人がいる	118	22	5	19		132	20	6	6	
親・家庭	94	兄弟(姉妹)が多い	131	24	4	5		143	20	0	1	
親・家庭	104	兄弟(姉妹)が少ない	143	11	4	6		145	12	3	4	
親・家庭	114	親が兄弟(姉妹)を差別する	151	6	5	2		145	6	5	7	1
親・家庭	124	親が不和である	145	12	5	2		140	11	7	6	
親・家庭	134	親が過保護である	127	25	3	7	2	136	14	7	5	2
親・家庭	144	実家での自由がほしい	127	13	10	14		132	14	6	12	
親・家庭	154	親の愛情が足りない	156	8	0	0		154	9	1	0	
親・家庭	164	親にかくしごとをしている	113	32	8	11		130	26	2	6	
親・家庭	174	家に帰るのがゆううつだ	142	16	3	3		143	12	4	5	
親・家庭	184	実家に帰りたいがなかなか帰れない	103	25	16	20		113	21	15	15	
親・家庭	194	親との対話が少ない	123	31	5	5		131	23	4	5	1
生活一般	5	人付き合いが下手だ	55	73	25	10	1	71	67	19	6	1
生活一般	15	人前で話をするのが苦手だ	53	72	22	17		79	58	19	7	1
生活一般	25	初めて会った人となかなか話ができない	58	65	26	15		81	58	16	9	
生活一般	35	地味に努力することが好きではない	93	48	12	10	1	113	37	8	5	1
生活一般	45	標準語がうまく話せない	120	26	7	10	1	137	16	6	4	1
生活一般	55	テレビを見る時間が多い	86	38	25	14	1	115	32	9	6	2
生活一般	65	夜の外出が多い	76	60	17	11		113	39	6	6	
生活一般	75	ギャンブル的な遊びがやめられない	120	30	8	6		129	17	11	7	
生活一般	85	朝起きが苦手だ	64	44	20	36		89	39	17	19	
生活一般	95	もっと教養を深める機会がほしい	79	48	17	20		100	37	14	13	
生活一般	105	自動車運転免許がほしい	105	10	11	38		114	18	13	19	
生活一般	115	得意な運動や趣味を持っていない	140	19	4	1		114	18	2	0	
生活一般	125	社会情勢にうとい	90	50	12	12		104	38	15	7	
生活一般	135	英会話ができない	56	54	17	37		80	52	14	18	
生活一般	145	読書をもっとしなければならぬ	84	44	21	15		106	33	15	10	
生活一般	155	おしゃれのセンスが悪い	92	51	16	5		108	41	12	3	
生活一般	165	趣味や遊びの時間がとれない	88	35	20	21		97	34	18	15	
生活一般	175	目上の人に反抗したくなる	87	41	23	13		108	29	14	12	1
生活一般	185	洋服や身体が少しでも汚れるととても気になる	91	53	12	8		109	38	12	5	
生活一般	195	規則正しい生活ができない	92	45	16	11		112	33	12	7	
異性	6	男性(女性)としての魅力がない	56	68	31	9		86	59	13	6	
異性	16	異性の友達が少ない	104	34	18	8		116	38	7	3	
異性	26	異性の前でスムーズに話ができない	69	67	20	8		92	53	14	5	
異性	36	異性との交際が多い	100	46	15	3		118	27	15	4	
異性	46	異性との交際に親が厳しい	139	16	7	2		145	12	5	1	1
異性	56	異性との交際の仕方がわからない	112	35	10	7		117	32	8	7	
異性	66	異性と親密に交際することがこわい	136	21	4	3		138	18	3	5	
異性	76	特定の異性との間が深入りしている	128	17	5	14		140	12	3	9	
異性	86	異性との関係が評判になっている	141	11	8	3	1	146	10	2	5	1
異性	96	特定の異性に対して、自分の好意が通じない	98	32	18	16		112	26	12	14	
異性	106	好きでない異性に好意をよせられて困る	133	24	4	3		144	12	4	4	
異性	116	自分の交際相手とのことが頭から離れない	123	22	9	10		135	12	9	7	1
異性	126	結婚してうまくやってゆけるか心配だ	108	32	16	8		114	30	10	10	
異性	136	よい結婚相手が見つかるか不安だ	89	42	17	15	1	108	32	10	13	1
異性	146	性についての知識が十分ではない	115	42	5	2		121	38	3	2	
異性	156	性的な欲求が強すぎる	101	37	13	12	1	119	31	6	7	1
異性	166	ビデオや写真などの性的な刺激を求めてしまう	97	50	9	8		122	28	8	5	1
異性	176	自慰行為(マスターベーション)がやめられない	120	33	2	9		139	16	4	5	
異性	186	以前、性にまつわる過失があった	143	13	2	6		143	9	8	4	
異性	196	エイズに感染するのがこわい	95	32	9	28		108	22	9	25	

資料 「悩み」の調査課題と単純集計結果-2

種別	No.	質問項目	A (日ごろどの程度?)					B (深刻なものか?)				
			1	2	3	4	NR	1	2	3	4	NR
人生	7	自分の理想とちがう生き方をしている	51	65	32	15	1	74	66	14	9	1
人生	17	生きがいが見つからない	104	38	16	5	1	103	38	14	8	1
人生	27	すぐに他人にたよってしまう	70	70	17	7		98	50	10	5	1
人生	37	人生とは何かがわからない	89	49	15	11		97	49	8	10	
人生	47	人生について何も考えられない	125	34	4	1		126	30	4	3	1
人生	57	現在の社会がのろましい	100	40	14	10		104	37	13	10	
人生	67	もっと明るい社会が作れないかと思う	85	47	18	14		106	32	15	11	
人生	77	宗教的信仰心がない	135	12	2	15		152	6	1	5	
人生	87	宗教的信仰心が強すぎる	159	4	1	0		154	6	0	4	
人生	97	死が恐ろしい	98	40	8	18		110	33	7	14	
人生	107	こまやかな心づかいがたりない	90	45	21	8		101	42	13	8	
人生	117	悩みを発散させる方法がわからない	110	38	10	6		119	25	18	2	
人生	127	自殺したいと思うことがある	132	24	2	4	2	138	14	2	8	2
人生	137	一人暮らしがさびしい	119	34	5	4	2	138	17	2	5	2
人生	147	酒がやめられない	144	14	4	2		142	11	8	3	
人生	157	酒が飲めない	125	18	9	12		135	13	7	9	
人生	167	たばこがやめられない	111	18	9	26		116	24	8	16	
人生	177	言葉づかいが汚い	110	38	10	6		120	30	7	6	1
人生	187	以前に悪い行いをした	117	28	10	9		127	25	4	8	
人生	197	相談したいことがあっても相談相手がいない	130	18	7	9		128	17	11	8	
進路	8	将来の計画が立っていない	64	60	25	15		70	58	25	11	
進路	18	選んだ進路が間違っているのではないかと思う	74	63	17	9	1	86	46	21	10	1
進路	28	自分は将来どんな人生を歩くのかと思う	35	79	25	25		62	69	18	15	
進路	38	将来大きな不幸におそわれるかもしれないと不安だ	99	49	9	7		105	48	4	7	
進路	48	社会人として周囲と強調してやっていけるか不安だ	87	59	16	2		98	45	15	5	1
進路	58	よい親になれるか不安だ	97	48	12	7		106	35	13	10	
進路	68	自分の職業的能力がわからない	74	61	15	13	1	83	53	12	15	1
進路	78	職業についての情報がほしい	49	64	33	18		70	53	24	16	1
進路	88	早く社会に出て自立したい	78	51	20	15		103	39	13	9	
進路	98	卒業後、希望するところへ就職できるか不安だ	29	46	48	40	1	45	48	31	40	
進路	108	自分の能力にあった職業を選択できるかわからない	68	59	24	13		84	46	18	16	
進路	118	卒業して就職することが不安だ	76	51	19	18		87	45	18	14	
進路	128	幸せな家庭を作れるか不安だ	109	36	12	7		118	30	7	8	1
進路	138	早く結婚したい	88	40	21	15		113	28	11	12	
進路	148	スポーツ種目の選択を誤ったのではないかと思う	125	28	4	6	1	131	20	7	5	1
進路	158	現在やっている競技を将来も続けられるか不安だ	122	26	6	9	1	128	24	3	8	1
進路	168	いろいろな資格をとりたいが、とれるか不安だ	62	57	31	14		82	48	26	8	
進路	178	教員採用試験に合格できるか不安だ	61	41	28	34		71	38	22	32	1
進路	188	社会の歯車に組込まれるのが不安だ	118	29	8	9		119	28	7	10	
進路	198	選んだ進路にむけて努力し続けられるか不安だ	85	48	16	15		92	43	15	14	
大学生生活	9	大学の生活に適應できない	93	56	9	5	1	97	48	13	5	1
大学生生活	19	男女共学がいやだ	159	1	2	0	2	156	3	2	1	2
大学生生活	29	男女間の考え方に差がある	68	59	25	12		90	53	17	4	
大学生生活	39	講義の人数が多い	103	48	6	7		126	25	9	4	
大学生生活	49	大学のいろいろな施設設備が足りない	49	44	28	42	1	68	38	23	34	1
大学生生活	59	大学での自由が少ない	81	33	22	28		92	33	14	25	
大学生生活	69	大学生生活が忙しすぎる	77	41	21	25		88	32	21	23	
大学生生活	79	大学が学生の要求に無関心だ	63	49	24	28		75	45	17	27	
大学生生活	89	先生が学生に対して理解がない	80	52	16	16		91	42	16	15	
大学生生活	99	大学の規則が厳しい	129	22	9	4		136	18	7	3	
大学生生活	109	図書館に読みたい本が少ない	110	24	13	17		122	24	5	13	
大学生生活	119	学生会活動が活発ではない	112	17	11	23	1	130	15	9	9	1
大学生生活	129	現在の大学は第一志望ではなかった	79	32	13	40		96	32	17	19	
大学生生活	139	学生の連帯感がなく、ばらばらだ	93	42	13	15	1	108	37	9	10	
大学生生活	149	部活動やサークル活動に不満がある	61	39	25	39		76	32	27	29	
大学生生活	159	先生からの援助がほしい	129	26	4	4	1	132	22	5	4	1
大学生生活	169	先生と親しくなれない	120	28	9	7		127	27	7	2	1
大学生生活	179	先生に疎外されている	143	18	1	2		144	16	2	2	
大学生生活	189	大学をやめようかと思うことがある	100	37	14	13		111	22	19	12	
大学生生活	199	卒業できるか不安だ	107	32	11	14		118	26	11	9	

体育系大学生における「悩み」の主観的頻度について

資料 「悩み」の調査課題と単純集計結果-3

種別	No.	質問項目	A (日ごろどの程度?)					B (深刻なものか?)				
			1	2	3	4	NR	1	2	3	4	NR
学習	10	勉強に十分な時間を使っていない	34	41	48	41		56	59	29	20	
学習	20	効果的な勉強方法がわからない	70	63	24	7		86	49	22	7	
学習	30	好きな科目を深く勉強できない	98	47	12	7		104	44	8	7	1
学習	40	嫌な教科でも受講しなければならない	53	67	23	21		90	55	10	9	
学習	50	大学でやっていない他の科目を勉強したい	86	45	21	12		102	36	15	11	
学習	60	科目の内容が難しい	84	51	21	5	3	92	49	13	7	3
学習	70	科目に興味がもてない	84	60	11	9		99	45	11	9	
学習	80	講義が退屈だ	29	77	35	22	1	64	59	24	16	1
学習	90	講義の時間に集中できない	70	67	20	6	1	98	46	14	5	1
学習	100	試験のことが心配だ	78	52	19	15		92	42	16	14	
学習	110	字が下手だ	76	40	21	27		84	51	13	16	
学習	120	レポートをまとめたり、ノートをとることが下手だ	87	47	16	14		99	43	11	11	
学習	130	記憶力が弱い	84	54	14	12		102	40	12	10	
学習	140	読書のスピードが遅い	108	37	6	13		126	23	5	10	
学習	150	自分の考えを言葉でうまく表現できない	77	55	20	12		93	39	22	10	
学習	160	勉強が好きでない	77	50	16	21		105	39	11	9	
学習	170	競技力がなかなか向上しない	76	37	29	21	1	87	30	26	20	1
学習	180	講義をついさぼってしまう	107	37	16	3	1	120	25	11	7	1
学習	190	悪いと思いながら、講義中に私語をしてしまう	81	50	20	13		105	40	7	12	
学習	200	講義中、周囲の私語が気になる	88	42	19	15		102	34	13	15	